

全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（2年）

今年度の分析

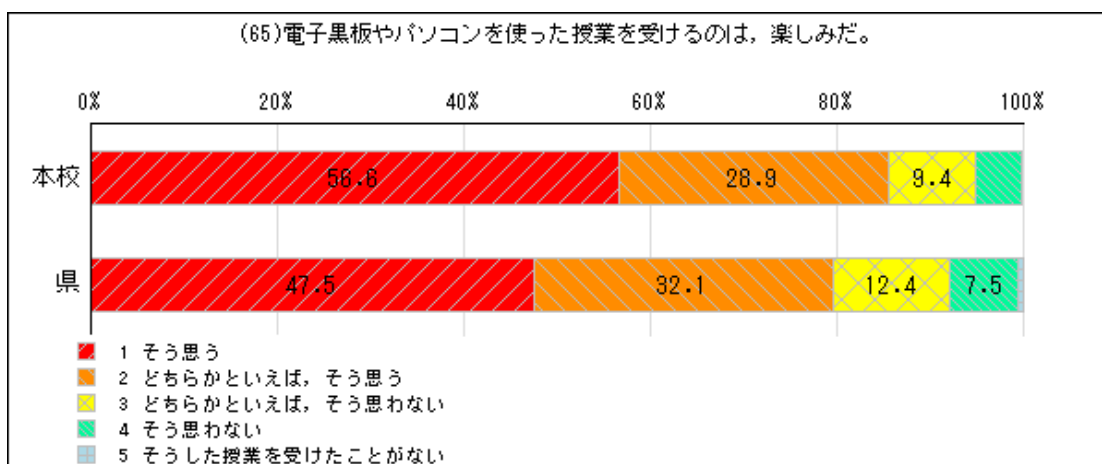
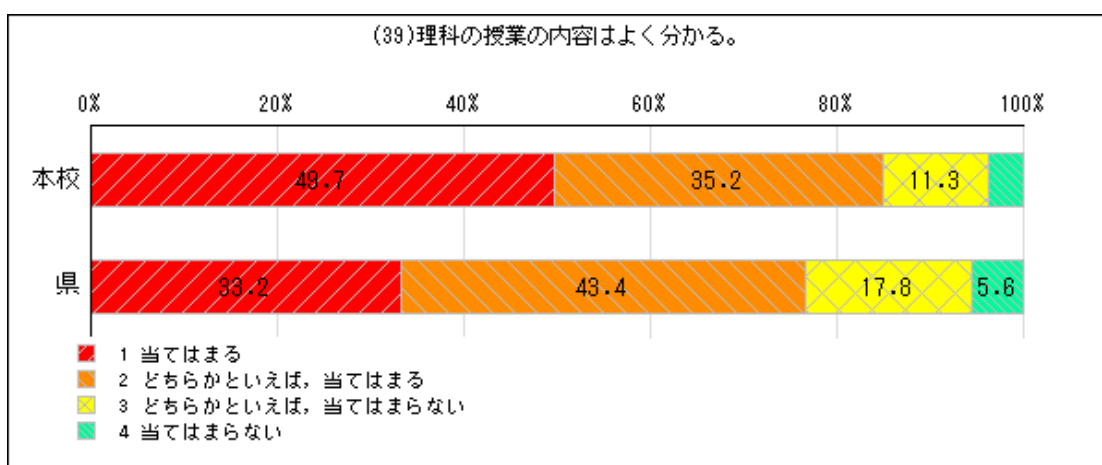
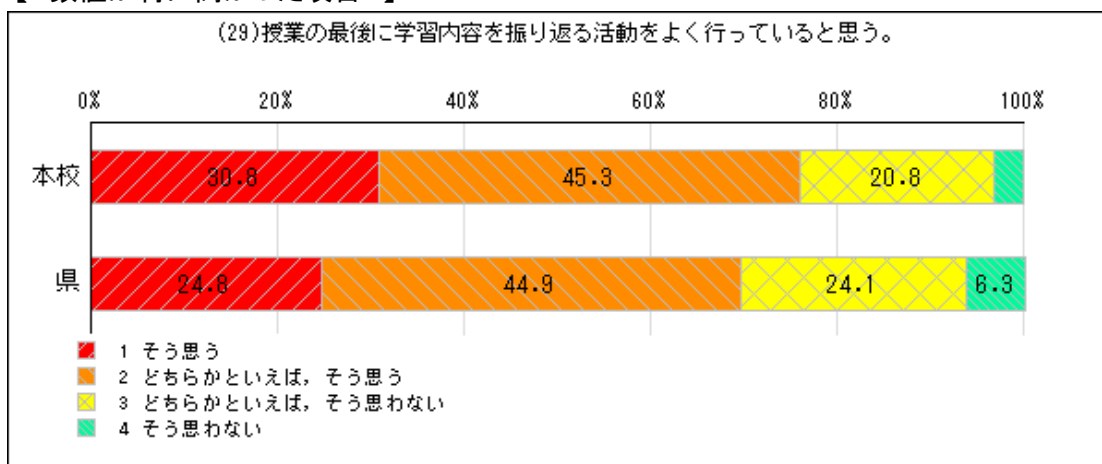
全体の概要	
国語	全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。観点別では「話す・聞く」「書く」「知識・理解・技能」は県平均とほぼ同じであるが、「読む」はやや下回っている。
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>話す</p> <p>インタビューにおいて、相手の発言内容の理解が不十分のため、県平均を大きく下回る設問があった。</p>	<p>相手の話の内容をきちんと把握し、それを踏まえて問い直しをする学習を仕組む。</p>
<p>書く</p> <p>適切な表現に書き直す設問において、誤答が多かった。</p>	<p>意味を変えずに一文を二文に分けて表現できるよう演習させる。</p>
<p>読む</p> <p>内容把握や文章表現の特徴を問う設問において、正答率が低い。</p>	<p>文章の主題や要旨を捉える学習や表現の特徴を理解する学習を普通の授業の中で強化していく。</p>
<p>知識・理解・技能</p> <p>漢字の読み書きにおいて、正答率にばらつきが見られた。</p>	<p>授業や家庭学習を通して、語彙力の養成を継続して図っていく。</p>

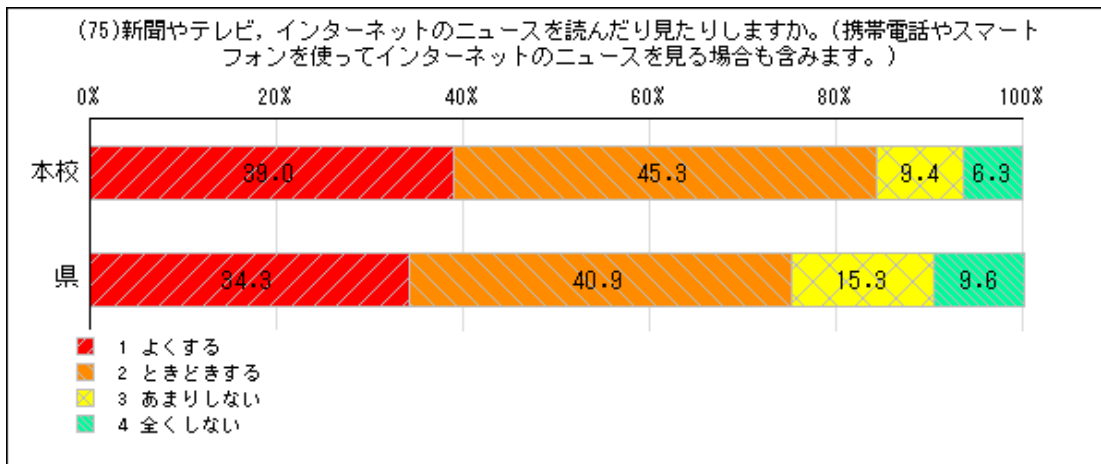
今年度の分析

全体の概要	
数学	<p>全体の正答率は県平均とほぼ同じである。到達度分布を見てみると「要努力」の生徒の割合が多く、「十分達成」の生徒の割合が低くなっている。</p> <p>内容・領域別に比較したときは「数と式」〔資料の活用〕は県平均とほぼ同じである。一方、「図形」「関数」は県平均よりやや低くなっている。</p>
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>考え方</p> <p>県平均に比べてほぼ同じである。記述式の無解答率が県平均に比べてやや高い傾向にある。</p>	<p>授業の中でも自分の考え方を発表する場面を設定する。 また、定期テストでも記述式の問題を出題する。</p>
<p>技能</p> <p>県平均に比べてほぼ同じである。図形の面積や体積を求める問題や比例・反比例の問題の正答率は県平均に比べてやや低い傾向にある。</p>	<p>本校取り組みのすきるアップテストの実施により、基本的計算能力の定着を図るとともに、課題や小テストを利用して多くの問題に取り組みさせる。</p>
<p>知識・理解</p> <p>県平均に比べてやや下回っている。特に「反比例」「移動」「ねじれの位置」などの用語に関する問題の正答率がやや低い。</p>	<p>授業の中で数学用語の確認を行い、数学的表現を使って説明することで定着を図る。</p>

全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（2年）

【 数値が特に高かった項目 】

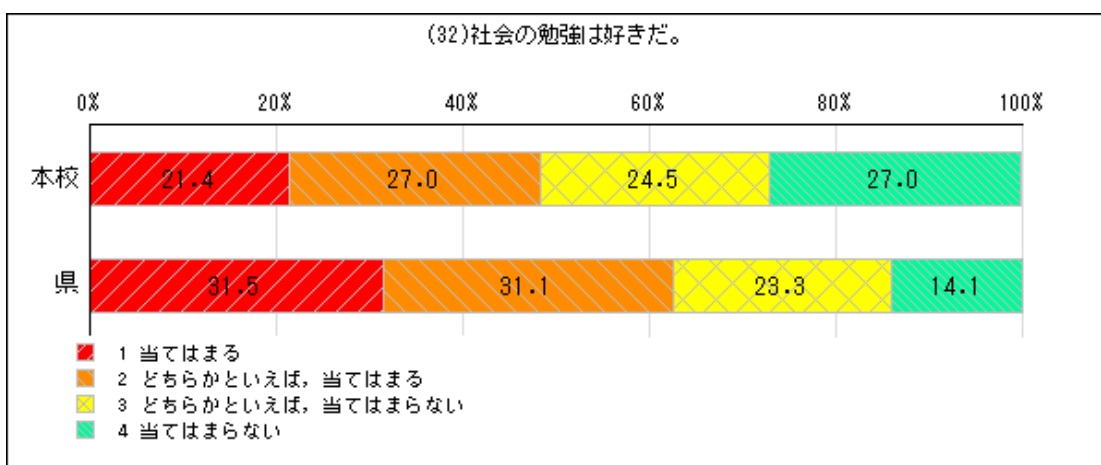
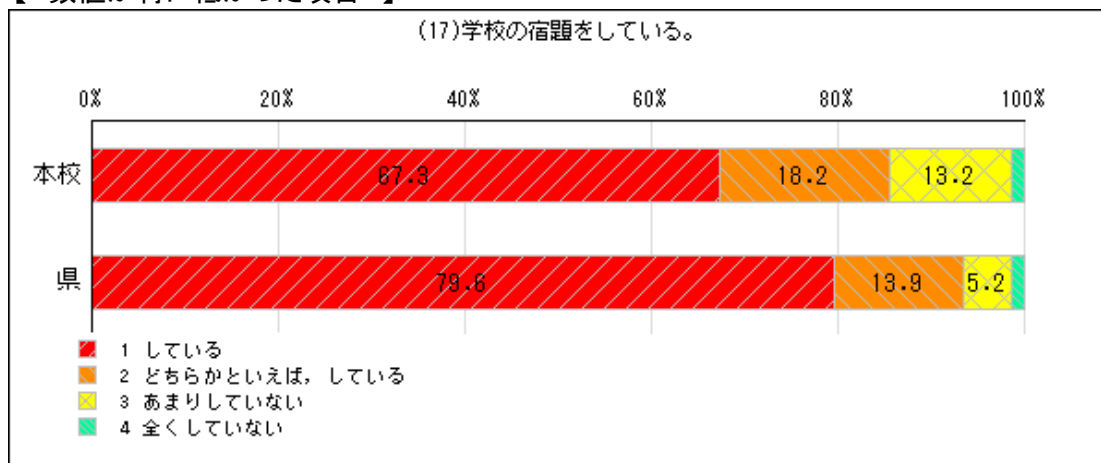




分析と改善に向けた具体的取り組み事項

昨年度から校内研究で取り組んでいるためか、授業の目標の提示やふり返し等の取り組みに対しての意識が高い。情報をノートに整理してまとめることを好きだと考えている生徒は県の平均を超えている。理科が好きな生徒が多い、知的好奇心が揺さぶられるような実験などの活動を積極的に取り入れている成果だと考えられる。電子黒板などのICT機器を取り入れた活動も好きな傾向がある。スマホを1時間以上している生徒が50%を超えている。

【 数値が特に低かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

宿題をしていると答える生徒が県にくらべると10ポイント以上少ない。提出の呼びかけを積極的に行ったり、家庭学習の時間の確保のために、学習方法の提示や宿題以外の学習の指示を授業で行ったりする。

自分の意見や考えを説明したり、書いたりすることを苦手と感じる生徒が県より若干多いので、意見の述べ方のモデル提示を行ったり、繰り返し活動させることで定着を図る。

社会が苦手だと感じる生徒が多い傾向があるので、実生活と習っていることを結びつけるよう授業を工夫する。